

## ドイツ経済の現状と欧州危機対応

2012年1月15日

—ドイツはいずれにせよ上手く行っている—

山本利久

これは独ハンデルスブラット(経済紙)2011年12月27日掲載の専門家会議議長ヴォルフガング・フランツ教授へのドリット・ヘス氏によるインタビュー(ドイツ連銀 Auszuege aus Presseartikeln NR.54 2011/12/28 に転載)を要訳したものである。経済事情のみならず、現在の欧州危機についても言及されており、ドイツ的思考を理解する上で参考になると思いい作成した。

尚形式として最初に質問④、次にその回答④を配列してある。

○④今年欧州の8カ国で政府が交代、欧州の失業者数は2350万人に上昇した。そして債務危機は依然未解決、世界的景気後退が現実味を帯びてきた。来年も同じように多くの波乱と凶報があるのですか？

④我々は今、ドイツ経済に反動を齎している世界的な景気後退期にいる。しかし政治は諺に出てくるウサギが蛇を凝視するように振る舞ってはならない。政治が欧州の債務危機を解消しなければならない—それが決定的になるのだ。その時多くのことが達成されるだろう。

○④仮にそれが出来なければ、来年はもっとゆゆしい事態となるのですか？

④ゆゆしい？ 過ぎ去った一年は実質的に見て決して悪くはなかった、いずれにしろドイツ経済はGDPで3%上昇することが出来た。過去20年間でこれだけの成果は3回だけだった。そして就業者数はこれまでの最高である。見てみなさい、設備稼働率は今年末、長年の平均より高い。企業は健全で、有望だ。ドイツはいずれにしろ上手く行っている。

○④関連追加質問、ドイツの様な開かれた経済は世界の景気後退にどの程度長く抵抗出来るのですか？貴方の同僚の多くが、最近景気予想を下方修正した。専門家会議は6週間前2012年経済成長を辛うじて1%と予測した。世界的成長鈍化並びに未解決の債務危機を考えるとこれは尚現実的ですか？

④診断の半減期は実際危機の期間中に減退した。貴方の言う事は正しい。経済動向は今これまで以上にユーロ圏の債務危機に関する政治上の決定に大きく依存している。そして貴方はイタリア首相モンティ或いはギリシャの同僚パパデモス首相が一体どこまで改革を実施すると预言しますか？加えて世界経済が更に悪化し、直近の首脳会議後、金融市場への信頼感がまだ戻っていないのです。我々は、どちらかと言えば来年ドイツ経済が0.5%成長すると見込んでいる。しかし私は景気後退を恐れていない—GDPが5%も落ち込んだ2009年の様な深刻な事態を考えていない。

○④IMF専務理事ラガルドは別の見方をしているようですが：債務危機はエスカレートし、中国の成長は鈍化、金融危機は先鋭化する可能性がある。彼女の警告は正しいかそれともパニックを誘発するのか？

④その可能性は確かにある。リスクを認識しておくことは正しい。そのことは我々も同様に年次の所見で行い、そして世界貿易が停滞する中、2012年の更なる景気弱体化は殆ど回避できないだろう、と指摘した。しかし景気後退自身も又こちらに話しかけるのだ。ラガルド氏は言葉の選択に慎重で、実際適切なアドバイスをするだろう。

○@経済学はまた相当心理学でもあるのですか？

④その通り。様々な分野の多くの企業が先週も先月もいつも私に次の様な質問を繰り返した：エコノミスト達は一体何について話すのですか？景気の落ち込み？彼等は景気後退の兆しなど一向に感知しません。しかし彼等は、公式な議論の続く中で、一体いつ制御動作の連鎖が始まるか心配する。個人の考え方が警戒的になれば、投資は抑制される。そしてその時、我々は恐らく景気後退を迎えることになる。

○@心理学ばかりでなく、諸要因もあります。それらは結局常に勇気付けになるとは限らなかった、それとも？

④確かに政治家は今勇気付けが出来るだろう—そこで彼等は欧州のために転轍機(ポイント)を正しくセットするのだ。

○@12月初めに行われたEU首脳会議の、当時としては楽観的とも見られた決議に賛同しますか？

④モンティ氏とパパデモス氏は二人共経済学の教授で二つの中心的な債務危機国の頂点にいる—はい、これは上手く行くに違いない、冗談を言うのはよしてもらいたい。直近の首脳会議決議は少なくとも通貨同盟に対する機能重視の規則枠を考慮すれば、効果がある、と期待している。国家レベルでの財務抑制と制裁強化が兎も角取り決められた。EU委員会がその計画を変更しそして欧州経済・財務閣僚の提言を只特定多数で否決しうる制裁を決めたことは、前進と言えよう。これで少なくとも将来絶対に制裁が定められると言う蓋然性が高まった。

○@法的枠組みは中期的に重要であり且つ正しい。しかしそれで以って今日の形態におけるユーロ圏は存続するとして、次に直接何か手を打つ必要があるのですか、あるとすればそれは何ですか？

④この質問に対する回答を専門家委員会は既に出している：我々は債務償却協定を議論している。この中でユーロ加盟国全てのGDPの60%を越える国家債務が取り除かれる。この額は2.3兆ユーロである。これに対し全てのユーロ加盟国が共同責任を持つ。債務国はその外貨準備(外貨・金)の一部を抵当に入れ、公債整理を強化するため自ら責任を持たなければならない。基金に持ち込まれた旧債務は25年以内に自己責任で償却されなければならない。その為一定の自由裁量の余地を設けるため、加盟国は憲法で債務制限条項を規定しなければならない。

○@この提言の背景にはどんな核心的目的が秘められているのですか？

④我々はユーロ圏の長期安定の確立に向けた橋の建設と、同時に欧州中央銀行の更なる取得(債券等\*)を阻止する防壁を建てることを意図している。そしてまた我々ドイツ人は

この 100 年間何が起き、いつ中央銀行が国家債務に融資するか当該体験を集積してきた：中銀は独立性を失い、そしてインフレ懸念が増長する。米国で、むしろ認められるようなインフレは債務の別なタイプの共有化以外の何物でもない、つまり考え得る非社会的なものだ。我々はこうしたリスクを決して受け入れるべきではない。\*筆者注。

○@貴方の提言に対するメルケル首相の最初の反応はしかし大変懐疑的であったが。

④首相は提言を率直に却下せず、代わりに注意深く検証することを確約した。当然のことながら、尚一連の細目と法的問題がクリアされなければならない。我々は議論をぶつけたい、そして我々の団体の多くの人々と同様にただ発言するだけではない。それでは何事もうまくいかない。多くのエコノミストは欧州中銀が再び責務を負う事を望んでいない。彼等の多くはユーロ債(共同債\*)を認めない。彼等は救済機構 EFSF に銀行ライセンスを付与することに反対する。裏口からの IMF 連携はその上に大きな疑念を呼ぶ。

\*筆者注

○@この疑念を共有しないのですか？

④そんなことはない。私は否認をよくあとづけることが出来る。全てが整然としている。しかし何か？政治的計量の不能を恐れて、神経質な金融市場が、経済問題を抱えた加盟国への望ましい債務整理強化策にも拘わらず、鎮静化しない場合、次に何が起きるか？多くのエコノミストは肩をすくめるか或いはそのようにはならないよう希望する。ドイツ連銀自身は公に、早くに、越えることが許されない赤線で守られている。

○@ドイツ連銀の新総裁ヴァイデマンは貴方の見るところ、よいスタートを切れなかったのですか？

④私が酌量してやることは、首相の経済アドバイザーとしての前職から解放されたこと、そして非常に明瞭な進路を辿り出したことである。私は彼の姿勢と問題国に対する相当な奮起要請に全面的に賛同する。しかしヴァイデマンはプラン B の提言を行わなければならない。金融市場自身が問題国における巧妙で十分な対策について納得出来なければ、何が起きるか？

○@相当な圧力がヴァイデマンに掛かっている。彼は持ち堪えますか？

④彼は自己の責任を正しく評価する、と私は確信している。

○@ヴァイデマンの前任者ヴェーバー\*そして尚欧州中銀にいる主席エコノミスト、シュタルク\*\*の二人は諦めた。貴方はそれをあとづけ出来ますか？

④既にあとづけている。私は彼等が欧州中央銀行内でその地位で更に戦うよう望んだのだが。それは努力を要することだがしかし、しがいのあることだ。彼等はなお立派な意見を持っている。

筆者注：\*彼はドイツ連銀の前総裁、次期欧州中銀総裁の有力候補者だった。政策や運営方針を巡る調整が上手く行かず、出馬を取りやめたとされた。\*\*ドイツ出身の彼は欧州中央銀行の前理事兼主席エコノミスト。政策論争で主張が認められず離任したのではとされた。

○@貴方は二人の主役メルケル首相とサルコジ大統領の危機管理について同じく批判的ですか？

④彼等は遣ってのけてはいけないこともやらねばならない：全てを満足させるために。一面でドイツとフランスは先頭に立つ必要がある。ところが彼等がそうすれば、残った欧州が支配されてしまうと批判を浴びる。そうせずに争えば、激昂はますます大きくなる。例えば欧州中央銀行の統合と結束の度合いについてドイツとフランスの見解が如何に相違しているかを熟慮すると、メルケル首相は何と言ったって機能重視の整理の枠組みに向けた重要な歩みを押し通せたことは注目すべきことだ。実質的な国家破産状態を考えると、それにも拘らず、願いは尚オープンではあるが。

○@金融市場は何が変わるのか充分弁えている。その為政治家の或る種の敵となる。格付け会社が力を持ち過ぎると言う多くの政治家の見解を貴方は共有しますか？

④格付け会社は金融危機で酷く恥をさらした。しかし彼等は必要な機能を果たしている。従って政治家は昔のギリシャの様に悪い情報の使者の首を刎ねる様に振る舞うべきではない。政治家は格付け会社の判断を誠意を以って認識すべきであり、奴隷の様に縛りつけてはならない。常に警告的であることに政治家が怒ることはよく分かる、しかしながら、それはよいことなのだ。それが取引の重圧を増すことになる。

○@それなら、格付け会社の影響はどの程度まで許容できるのですか？

④その使命は透明性のある基準に立脚した格付けを行うことにある。しかし彼等は経済の役割の中で抜け出そうとすることは許されない。

○@メルケル首相は政治優先の返還を繰り返し求めた。その為に彼女は何をしなければならぬのですか？

④彼女は取引法をもっと強く味方につけなければならない。それが出来ることを彼女は12月に行われた直近の首脳会議で証明した。Antoine de Saint-Exuperyの素晴らしい格言がる、人は未来を予言するのではなく、可能にすべきだ。恐らくそれはメルケル首相や同僚達にとり可能だ。しかし我々エコノミストにとっても新年の手引きになる可能性がある。我々は全て連合した、政治的、経済的に強固な欧州のため闘うべきである。

(了)